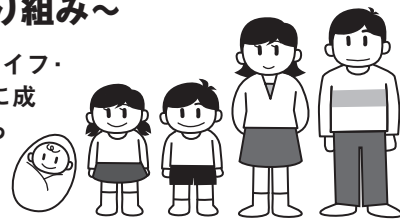


unicef
基礎講座

ライフ・サイクル・アプローチ

～子どもの成長に合わせた取り組み～

ユニセフが、子どもの成長に合わせて行う取り組みを「ライフ・サイクル・アプローチ」と言います。子どもたちがすこやかに成長していくためには、時期に応じて活動が異なると考えるからです。「ライフ・サイクル・アプローチ」は、子どもの成長時期を「乳幼児期」「学齢期」「思春期」の3つに分けています。



●乳幼児期 (0～6歳)



子どもが元気に生まれてくるためには、お母さんが妊娠中から十分な栄養をとり、安全な出産をすることが重要です。生まれた子どもは「出生登録」をして予防接種や健康診断を受け、しっかり栄養をとることで健康に育ちます。子どもの脳の発達は3歳までにほぼ完了と言われていて、親やまわりの人びととのふれあいがとても大きな影響を与えます。ユニセフは各国政府や地方の組織と協力しながら、栄養の知識の普及、保健サービスの改善、IECD（統合された早期幼児教育）の取り組みを行っています。

●学齢期 (6～12歳)



読み書きを学び、さまざまな生活の知識を身につけることは、健康に成長して、きちんとした仕事につき、貧しい生活から脱け出すことにつながります。世界では学校に通うことのできない子どもが約1億2千万人いて、そのうち約60%は女の子です。女の子も教育を受けると自信を持って生きていけるようになり、家族の生活の改善につながります。お母さんが教育を受けているほど、子どもの栄養状態が良く、病気にかかりにくく、乳幼児の死亡率が低くなるのです。ユニセフは現地の教育機関と協力して、ひとりでも多くの

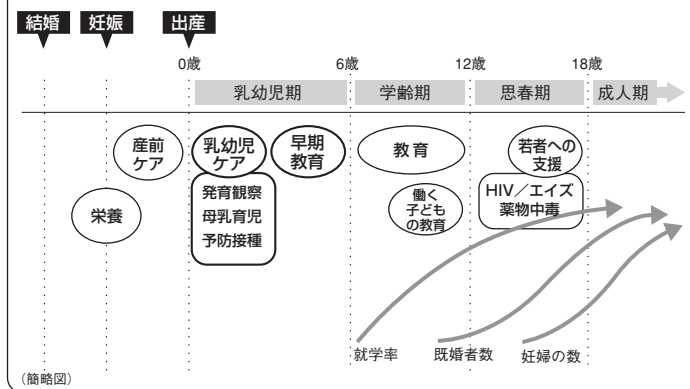
子どもたちが学校に通えるように先生を育てたり、教材や学用品を提供するなどの取り組みを行っています。

●思春期 (12～18歳)



思春期の若者は、早婚や若い年齢での妊娠、HIV/エイズ、薬物中毒などさまざまな問題に直面しやすい時期にあります。適切な知識を身につけ、問題改善のための活動に参加することで、社会の一員としての自覚を持ち、問題を解決していくことにつながります。ユニセフは、世界の子どもや若者たちのさまざまな活動を応援しています。

ライフ・サイクル・アプローチ—南アジアの女の子のモデル
子どもの人生の大事な時期にできること



●出生登録はなぜ大切な？

子どもが生まれた場所・名前・住所などの記録がないと、予防接種や、学校に入学する通知ができず、子どもの成長に必要な社会サービスが受けられません。「子どもの権利が守られない」ことになるのです。出生登録がないと、たとえば、誘拐され、売買されても探し出すことがむずかしくなります。出生登録は人生で最初の大切な手続きなのです。(P4～5で出生登録についてご紹介しています)



●母子健康手帳

子どもの元気な成長を確認するために、ユニセフは子どもの身長や体重、予防接種を受けた記録を「成長手帳」に記入する活動を広めています。日本には子どもの成長を記録する「母子健康手帳」があり、戦後の乳幼児の健康な発育に貢献したと言われていました。手帳に健康診断や予防接種の記録を残し、栄養のとり方や事故の予防に関する説明を紹介することで、お母さんの子どもに対する関心を高めているのです。アジアの国々を中心に母子健康手帳が広がりつつあるのはJICA（国際協力事業団）などが普及活動を行っているからです。



授業にいかそう ライフ・サイクル・アプローチ

- 日本の子どもたちはいつ、どんな予防接種を受けているのか調べてみましょう。
- 「母子健康手帳」がどんな内容か確認してみましょう。
- 世界の国の予防接種率を調べてみましょう。

参考資料のご紹介

- 「地球のともだち—ユニセフワークブック—」P10～11
 - 「ユニセフと世界のともだち」P12～13、P42～43
 - 日本ユニセフ協会ホームページ <http://www.unicef.or.jp>
・子どもの広場「データ館」
<http://www.unicef.or.jp/kodomo/data/data.htm>
- お問い合わせは学校事業部へ ☎03-5789-2014